

年 組 名前：

風林火山

「スマホはどこまで脳を壊すか」。何とも刺激的なタイトルの講演会が先月、開かれた。主催は山梨県。講師の榎浩平・東北大助教は「勉強を長時間しても成績が上がらないのは、『スマホ依存』があるから」と語る▼思い当たる中高校生が多いのではないか。勉強しながらも、ついスマホに触ってしまう。ただ、スマホは調べ物をするのに便利で勉強に生かせるのでは…。榎さんによるとネットでの検索時、脳はほぼ活動していないらしい▼知的活動や感情を制御する脳の領域「前頭前野」は、思春期の9歳18歳に特に発達する。この間にたくさん使って、鍛えることが大切なのだそうだ▼それには調べ物の際、紙の辞書を引くこと。指先で薄い紙をめぐり、五十音順に文字を探す。そうしたプロセスが脳を活性化させ、前頭前野を育てるという▼単に情報を集めるならスマホが効率的で、情報を記憶にとどめて知識、知恵に変換していく学習には、紙が有効といふことだ。タブレット偏重の学校教育にも榎さんは疑問を投げかけ、「読み書きそろばん（計算）」の重要性を説く▼大人にも勧めるのは「音読」だ。「音読以上に脳を鍛える方法は見つかっていない」と言い、「毎朝、新聞を開く時、自分の好きなコーナーを音読すると決める」と。1日5分でも10分でも習慣にすることが大事だそう。オールドメディアといわれる新聞だが、使い道はまだありそうだ。(杉)

(2026年1月16日付 山梨日日新聞1面)

問1

山梨県主催で講演会「スマホはどこまで脳を壊すか」が開かれました。その中で「勉強を長時間しても成績が上がらない理由」は、何と話しましたか。

問2

脳の領域「前頭前野」には、どのような機能がありますか。

問3

調べ物をする際、どのようなプロセスが脳を活性化させ、前頭前野を育てると言われていますか。

問4

どのような学習に、「紙が有効」と書かれていますか。